



リボンの架け橋

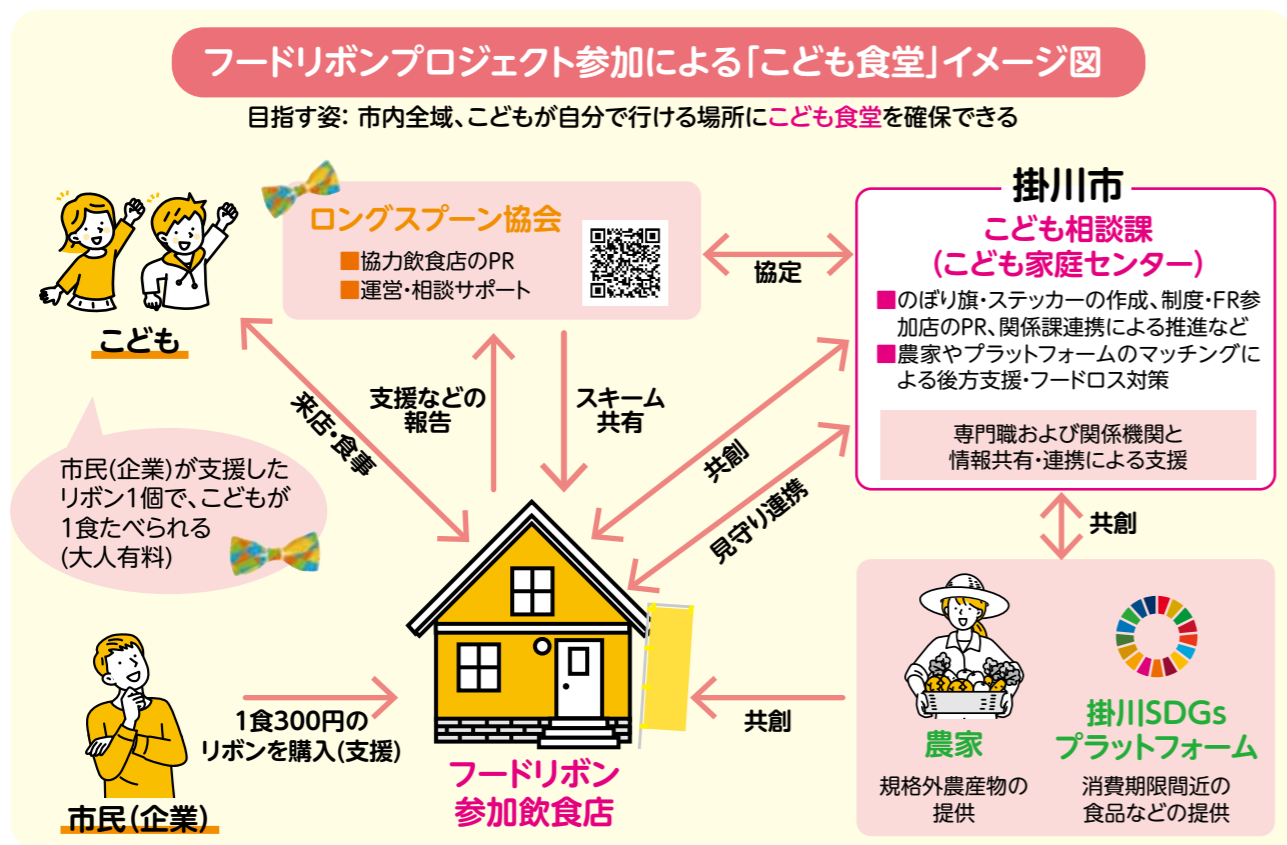
今日の1食をつなぐ「子ども食堂」

特集

リボンの架け橋

“今日の1食”をつなぐ「子ども食堂」

☎子ども希望部・子ども相談課 (☎21-1190)



写真はイメージです

参加費・手数料はかかりません

飲食店やホテルなどのみなさんにお願ひしたいのは、フードリボンへの支援をお客さんに呼び掛けていただき、子どもが訪れたときに、先払い購入されたリボン300円分のまかない程度の食事を提供していただくことです。

プロジェクトや協会への参加費・手数料は不要で、活動に必要なリボンやステッカーは協会から、のぼり旗などは

飲食店の参加募集中

子どもの「1食」と笑顔を守るためには、飲食店や市民のみなさんの協力が重要です。参加のための条件などを紹介します。

地域やお客さんがスポンサーとなり、飲食店が先払い購入されたリボン代で子どもに食事を提供することです。市と協会が包括連携協定を締結することで、既存の支援モデルを活用しスムーズなスタートを切ることができ、また、市内飲食店も市が関与することで安心して参加できます。

さらに、この事業が市内に広がることで、子どもを地域全体で支える共創の輪が広がるのが期待されます。事業開始は令和8年4月から。プロジェクトに参加する飲食店を随時、市ホームページや市公式LINEで周知していきます。



▲店先に張られたこのステッカーが目印 (市オリジナルののぼり旗作成予定)

求められる子育て家庭の経済的支援

令和7年度を初年度とする5か年計画「掛川市子ども計

令和4年、子どもの貧困率は11・5%

厚生労働省「国民生活基礎調査」によると、全国の17歳以下の約9人に1人が「子どもの貧困」とされています。実際に、生活困窮者に無償で食品を提供する掛川市社会福祉協議会の「フードバンク」利用者は、令和3年度と令和6年度を比べると2・7倍となる733件に増加し、支援の必要性が高まっていることが分かります。

協定締結により共創の取り組みが前進

このプロジェクトの特徴は、

画「策定時の市民アンケート調査の結果では、「子育て家庭の経済的支援」が重点的に取り組んでほしい施策の1つでした。経済的な困難を抱えたり、家庭に課題を抱える子どもが、「今日の1食」に困らず、気兼ねなく利用できる常設型の子ども食堂の確保が必要です。検討を重ねる中で出会ったのが、1食分300円のリボンをお客さんが支援し、子どもがそれを使って食事をする「フードリボンプロジェクト」でした。

子ども食堂×子どもの笑顔

「フードリボン」という活動を「存じですか?」子どもたちが安心して食事ができる環境づくりを目指して、飲食店のお客さんが購入したリボン(300円)で、子どもが無料で食事できる「子ども食堂」の新しい取り組みです。千葉県発の「ロングスプーン協会」が全国200以上の飲食店と連携して展開中で、掛川市も自治体では県内初となる包括連携協定を同協会と3月17日に締結して、この取り組みに参加していきます。



リボンの架け橋

今日の1食をつなぐ「こども食堂」

フードリボン以外にも支援の輪 市内8か所で「こども食堂」活動中



▲笠井屋食堂で笑顔いっぱい

常設型ではありませんが、下記の表のとおり地域やボランティアのみなさんが、市内8か所でこども食堂を展開しています。食事の提供だけでなく、見守りや学習支援、地域コミュニティの場、こどもの居場所としても期待されています。こども食堂の詳細情報は掛川市子育て総合案内サイト「かけっこ」で紹介中です。右下の二次元コードからご確認ください。ぜひお越しください。

また、活動団体への寄付先を同サイトで紹介していますので、みなさんのご支援をお願いします。



地域やボランティアによるこども食堂

区域	地区	活動名	開催
掛川	南郷	なんごうすくすくこども食堂	月1回
	南郷	おいでおいで食堂	月1回
	城北	だれでもみんな食堂	月2回
	掛川第三	子ども未来塾 キッズハピネス	2か月に1回
	掛川第五	こども食堂 遠JOY (エンジョイ)	毎週木曜日
西郷	①カフェフォンテ	①営業日	
	②まんぶく食堂	②不定期	
大須賀	大須賀第一	笠井屋食堂	月1回
	大須賀第二	和つなぎ食堂	年7回



▲市役所食堂内「遠JOY」の様子 (1月29日)



一般社団法人ロングスプーン協会 事務局長 加藤 紘章さん

ロングスプーン協会は令和3年に設立され、現在では全国の飲食店など210か所がフードリボンプロジェクトに参加しています。また、全国の15自治体と包括連携協定を締結し、確実に支援の輪を広げています。

「報徳のまち掛川」らしいリボンの架け橋に期待

日本にも家で朝食を食べられず、給食だけで1日を過ごす子どもがいる現実があります。こうした状況だからこそ、誰でも周囲の目を気にせず、安心してごはんを食べられる居場所が子どもには必要だと考えています。

すでに参加されている全国のお店では、おつりをリボン購入に充ててくださる方や、積極的にリボンを購入する方、会社で募金を集めて協力して下さる方など、温かい支援の輪が広がっています。

なかには、「あの子はお金があるのに食べに来ている」「困っている子の分がなくなるのでは」といった声もあるかもしれません。しかし一方で、対象を困窮家庭に限定してしまい、周囲との境界線を引いてしまうことで、リボンを使うことによる疎外感や抵抗感を子どもに感じさせてしまい、本当に必要な子どもほど利用しづらくなってしまいます。そこで、さまざまな子どもたちが自然にごはんを楽しめる場所にするのが大切だと考えています。そうすることで、本当にごはんを必要とする子どもも、ほかの子と同じように安心して利用できるようになります。

掛川市には二宮尊徳の「報徳の教え」が根付いていると伺っています。至誠・推譲の心で、みなさまがリボンを通じて支援の輪を広げてくだされば、掛川らしい温かい仕組みが生まれると信じています。ともに「今日の1食」をつなぐ支援を進めていきましょう。

フードリボンの仕組み

フードリボンは、お店は材料費を、子どもはごはん代を支援してもらえ持続可能な取り組みです

step1



プロジェクト参加飲食店を利用する市民などが子どもへの支援として300円のリボンをその場で購入する

step2



市民などが購入したリボンが参加飲食店の店頭に掲示される

step3



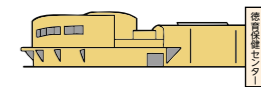
子どもは掲示されたリボン1つを使って、その参加飲食店で300円程度の食事ができる(大人は有料)

フードリボンに参加するためのフローチャート

参加料 手数料なし

1 市こども相談課へ相談

●担当職員が事業の概要を説明します。



2 ロングスプーン協会による説明会

●市が協定を締結したロングスプーン協会本部が開く「Zoom説明会」や個別の問い合わせで、事業の内容や登録後の運営方法などを確認します。



3 プロジェクト参加の準備

●趣旨を理解し活動に賛同したら、協力店として協会に登録します(参加のための費用負担はありません)。
●登録後、協会本部からガイドラインの送付や店舗での準備についての案内があります。
●準備が整ったら、市こども相談課からスターターキット(リボン、リボン掲示用ボード、ステッカー、のぼり旗など)をお届けします。



4 プロジェクトスタート

●子どもが店内に入らなくても分かる位置にリボンと掲示用ボードを配置します。
●市や協会のホームページなどで広く周知します。
●月1回、協会本部へ支援数や利用数を報告します。



ロングスプーン協会ホームページ「支援・参加の方法・飲食店の方へ」に詳しく紹介されています



リボンのルール

市から無償で提供します。主な参加条件は、原則営業日に実施(経営上の都合により難しい場合も、最低週4日以上実施)でき、店内で飲食できること。店内で購入した食べ物をその場で飲食する「イートイン」も大丈夫です。こどもの受け入れ時間帯はお店が決定します。全国の事例では、飲食店、ホテル、ラーメン店、居酒屋、コンビニエンスストアなど、幅広い業種の参加が見られます。

- 対象** 中学生以下(こどもだけの来店も可)
- 提供時間** お店ごとに設定
- メニュー** お店がその日に用意できる食事(要望不可)
- 利用回数** こども1人につき1日1個(1食分)
- 料金** こどもは無料(大人はリボンと同額程度)
- 参加条件** 思いと趣旨に賛同していただけること
- 参加方法** 市こども相談課(☎21-1190)に連絡後、協会の説明を聞き、参加できるかどうかの判断をする。

具体的な参加の流れは上記の表をご覧ください。参加が決まれば、市ホームページや市公式LINEなどで広く広報させていただきます。

市民のみなさんへのお願い

市民のみなさんがこの取り組みに賛同し、何か協力したいと思ったときは、ぜひプロジェクト参加飲食店でリボンを購入し、活動を支援してください。リボンは1つ300円で購入できますので、お店でお会計のときなどに支援の意向を伝えてください。

また、農家の方は余剰野菜の提供や安価販売でフードロス対策をしながら、プロジェクトをバックアップできます。これらの活動は、みなさんがそれぞれにできることを少しずつ取り組んでいただくことで、こどもの「今日の1食」を支えることができます。みなさんの協力をよろしくお願いします。



最新の情報は掛川市子育て総合案内サイト「かけっこ」で随時紹介します